

後発医薬品に関する アンケート調査結果の概要

平成22年3月
岡山県保健福祉部医薬安全課

1

○ 調査概要(1)

1 調査対象

- (1) 病院・診療所 (病院 175、診療所 1,646、歯科100)
- (2) 薬局 (保険薬局 719)
- (3) 県民 (患者(薬局来局者) 1,438、県民 700)

2 調査内容等

- (1) 調査方法 調査対象に対し、郵送等により調査票を配布し、返信用封筒により回収
- (2) 調査期間 平成21年12月1日(火)～12月15日(火)

2

○ 調査概要(2)

3 回収結果

		調査票発送数	有効調査票数	有効回収率
医療機関	病院	175	133	76.0%
	診療所	1,646	858	52.1%
	歯科	100	49	49.0%
薬局	保険薬局	719	490	68.2%
県民	患者(薬局)	1,438	662	46.0%
	県民	700	427	61.0%

3

○医療機関(病院・診療所)アンケート

○薬局(保険薬局)アンケート

○県民アンケート

4

○医療機関(病院・診療所)アンケート

5

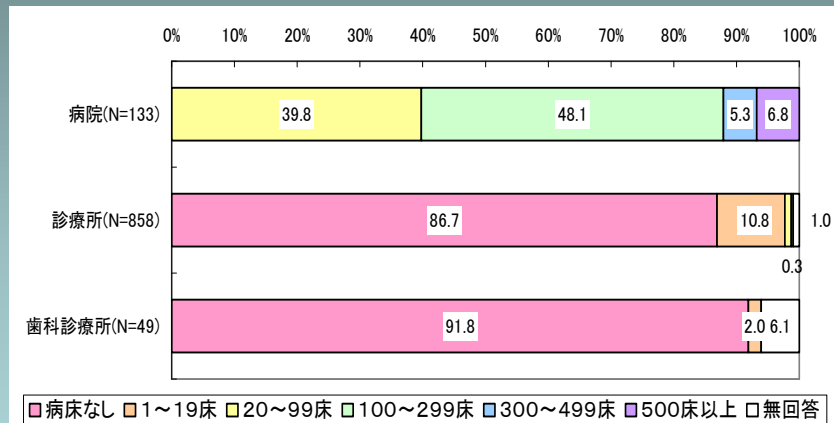
○所在地(上位5市町村)

	病院	診療所	歯科診療所
第1位	岡山市(33.1%)	岡山市(41.7%)	岡山市(36.7%)
第2位	倉敷市(21.1%)	倉敷市(19.9%)	倉敷市(24.5%)
第3位	津山市／玉野市 ／真庭市(6.0%)	津山市(6.9%)	津山市／総社市 ／瀬戸内市／真 庭市(4.1%)
第4位		玉野市(3.0%)	
第5位		新見市(2.6%)	

●病院、診療所、歯科診療所とも、岡山市・倉敷市の割合が高い。

6

○ 病床数



- 病院では、「100~299床」「20~99床」が多い。
- 診療所・歯科診療所では「病床なし」が9割程度。

7

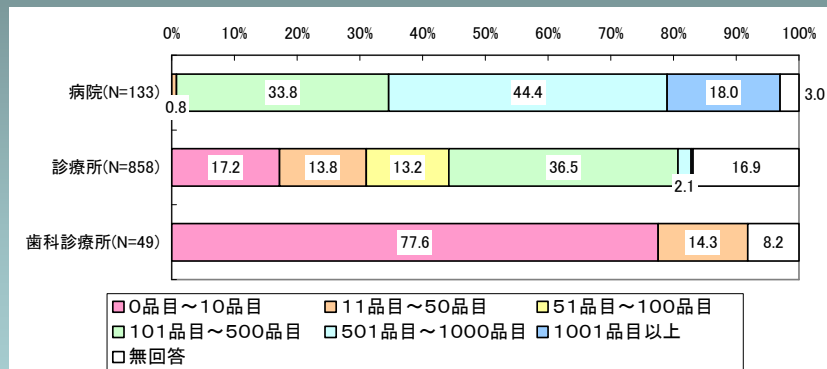
○ 診療科(上位5項目)(複数回答)

	病院	診療所	歯科診療所
第1位	内科(84.2%)	内科(62.8%)	歯科(100.0%)
第2位	外科(63.9%)	小児科(22.8%)	
第3位	整形外科(61.7%)	外科/消化器科 (13.5%)	
第4位	循環器科(41.4%)		
第5位	その他(39.1%)	整形外科(12.0%)	

- 病院では、内科、外科、整形外科、診療所では内科、小児科の割合が高い。

8

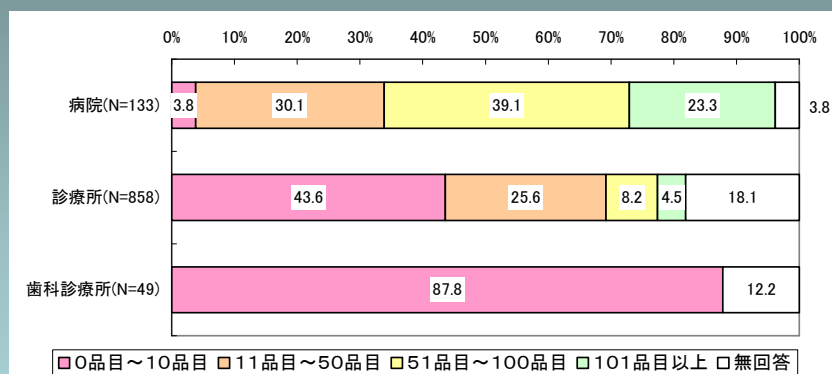
問1 医薬品の在庫品目数



●病院では、「501～1000品目」、診療所では「101～500品目」、歯科診療所では「0～10品目」がそれぞれ高い。

9

問1 うち後発医薬品の在庫品目数



●病院では、「51～100品目」、診療所・歯科診療所では「0～10品目」がそれぞれ高い。

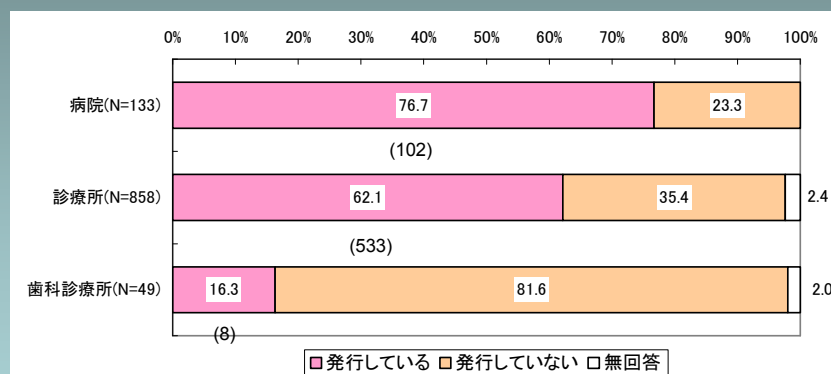
10

問2 後発医薬品を採用する際のポイント (上位5項目)(複数回答)

	病院	診療所	歯科診療所
第1位	安定供給(72.9%)	薬価(48.5%)	臨床効果(49.0%)
第2位	適応症の同一性 (63.2%)	臨床効果(47.8%)	薬価(38.8%)
第3位	メーカーの情報収集・ 提供体制(62.4%)	適応症の同一症 (37.9%)	納入価(36.7%)
第4位	納入価(60.9%)	安定供給(31.4%)	適応症の同一性 (24.5%)
第5位	薬価(57.1%)	納入価(29.1%)	安定供給(18.4%)

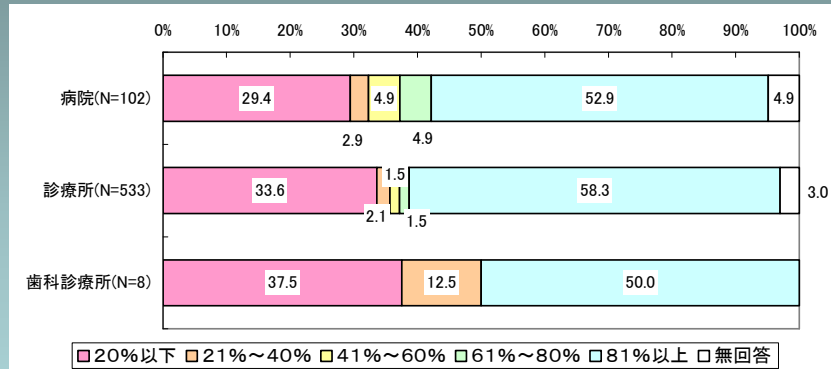
●病院では、「安定供給」「適応症の同一性」、診療所・
歯科診療所では「薬価」「臨床効果」がそれぞれ高い。¹¹

問3 院外処方せんの発行の有無



●発行している割合は、病院では8割程度、診療所では6割程度に対し、歯科診療所では16.3%と低い。¹²

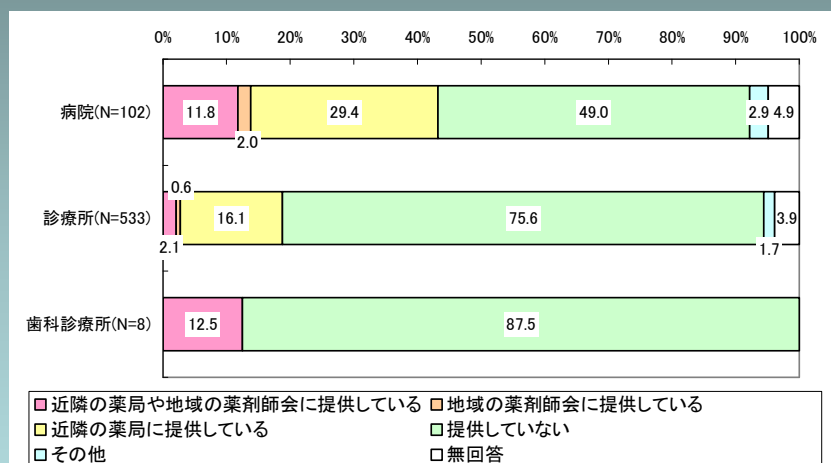
問4 直近6か月の院外処方割合(院外処方せんを発行している場合)



●院外処方割合は、病院・診療所・歯科診療所ともに「81%以上」が5割以上。

13

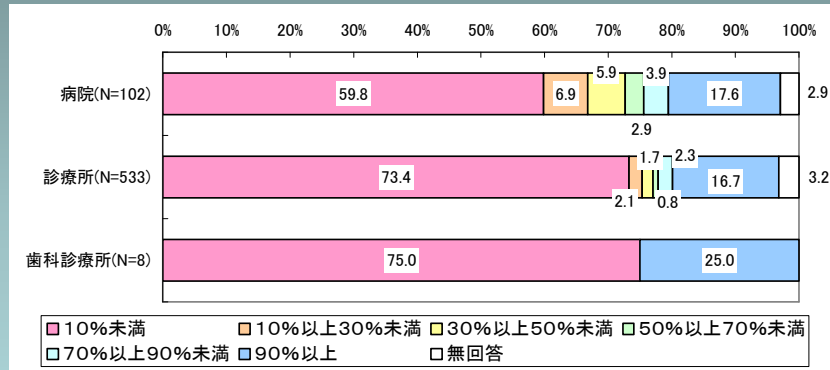
問5 後発医薬品リストの提供(院外処方せんを発行している場合)



●診療所・歯科診療所では「提供していない」が7割以上。

14

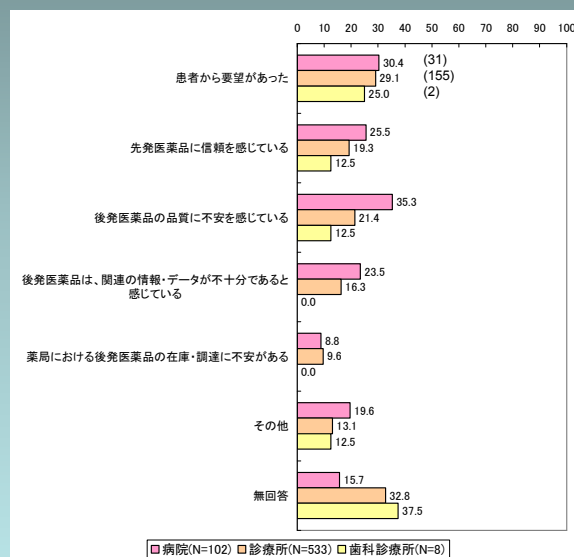
問6 後発医薬品への変更不可欄に署名・記名押印した割合



●病院・診療所・歯科診療所ともに「10%未満」が5割以上。

15

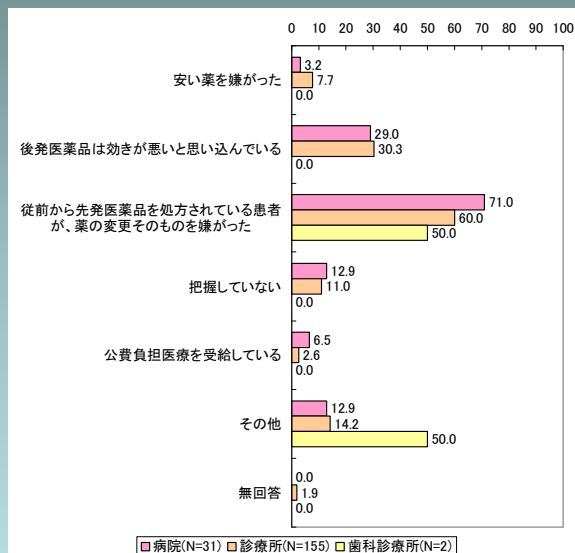
問7 後発医薬品への変更不可欄に署名・記名押印した理由(複数回答)



●病院では「後発医薬品の品質に不安」、診療所・歯科診療所では「患者から要望」がそれぞれ最も高い。

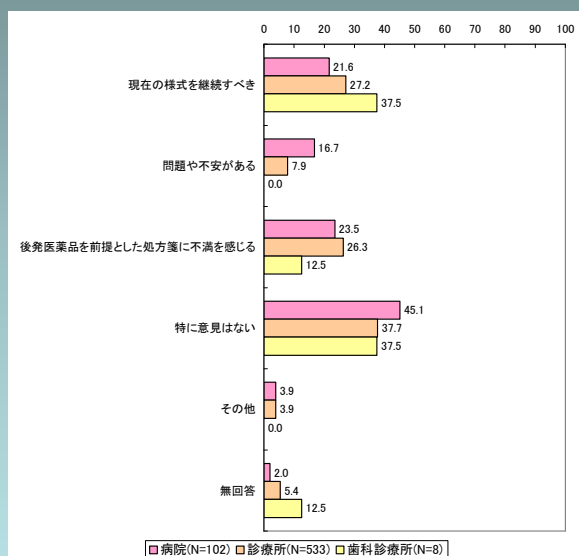
16

問8 問7で患者が要望した理由(複数回答)



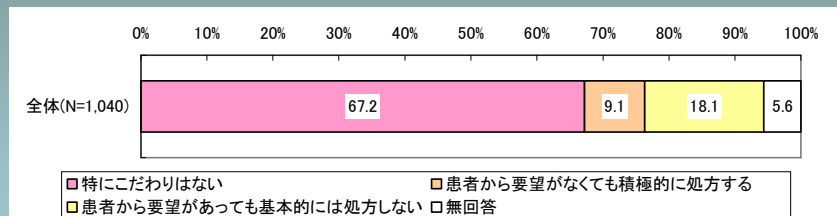
●病院・診療所・歯科診療所ともに、「従前から先発医薬品を処方されている患者が、薬の変更そのものを嫌がった」が高い。

問9 後発医薬品への変更不可の処方せんの様式(複数回答)



●病院・診療所・歯科診療所ともに、「特に意見はない」が高い。また歯科診療所では「現在の様式を継続すべき」も高い。

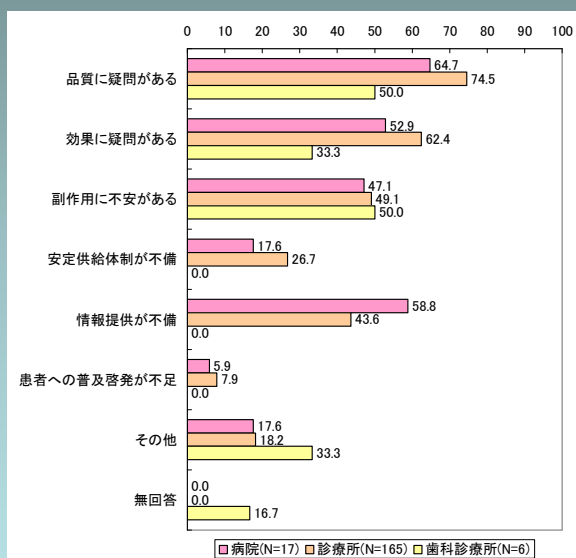
問10 後発医薬品の処方に関する考え方



●医療機関全体では「特にこだわりはない」が7割程度。

19

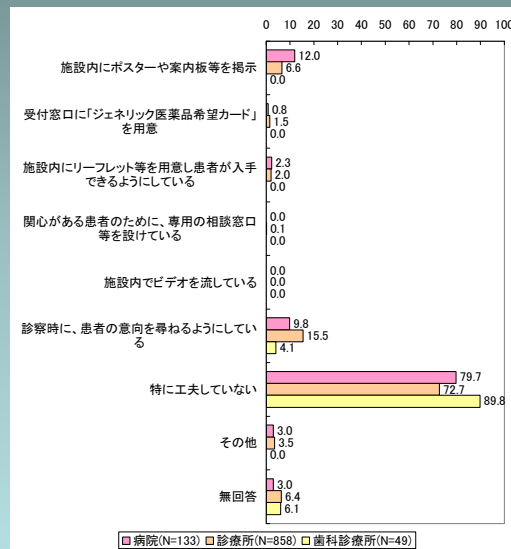
問11 後発医薬品を基本的に処方しない理由(複数回答)



●病院・診療所・歯科診療所とも「品質に疑問がある」が最も高く、次いで病院では「情報提供が不備」、診療所では「効果に疑問がある」、歯科診療所では「副作用に不安がある」も高かった。

20

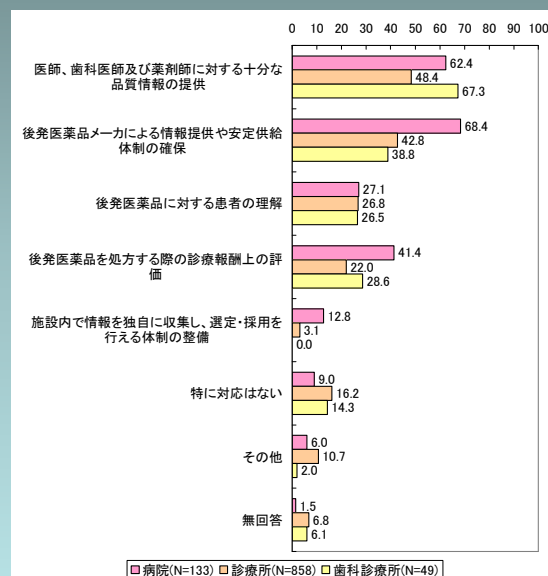
問12 患者が後発医薬品を頼みやすくするような工夫(複数回答)



●病院・診療所・歯科診療所とも7割以上が「特に工夫していない」。

21

問13 どのような対応がなされれば、後発医薬品の処方を進めてもよいか。(複数回答)



●病院・診療所・歯科診療所とも「医師、歯科医師及び薬剤師に対する十分な品質情報の提供」「後発医薬品メーカーによる安定供給体制の確保」が高い。

22

○薬局(保険薬局)アンケート

23

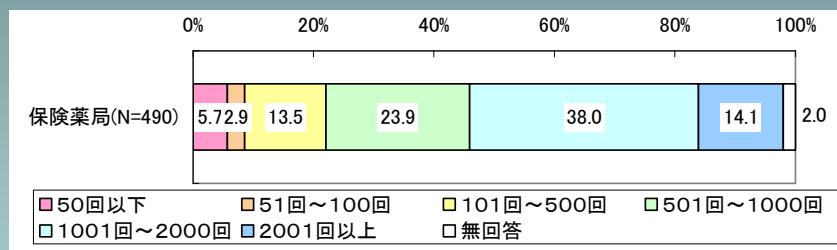
○所在地(上位5市町村)

	保険薬局
第1位	岡山市(38.6%)
第2位	倉敷市(18.8%)
第3位	津山市(10.2%)
第4位	玉野市(5.5%)
第5位	真庭市(3.9%)

●岡山市・倉敷市の割合が高い。

24

○ 処方せん月平均受付回数



- 「1001~2000回」が4割程度が最も高く、次いで「501~1000回」。

25

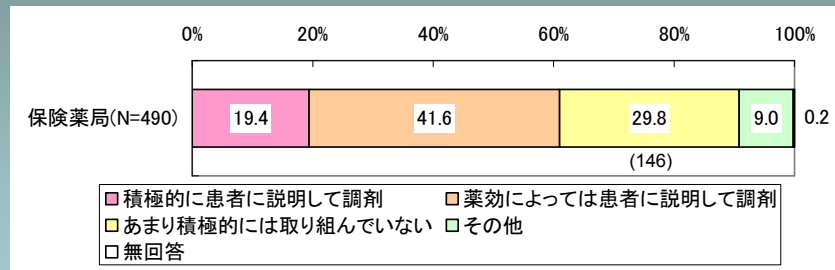
○ 取り扱った処方せんの主な発行診療科(上位5項目)(3科まで)

	保険薬局
第1位	内科(93.3%)
第2位	整形外科(38.4%)
第3位	小児科(23.3%)
第4位	耳鼻咽喉科(21.4%)
第5位	眼科(20.8%)

- 「内科」「整形外科」「小児科」の割合が高い。

26

問1 後発医薬品の調剤に関する取り組み



- 「積極的に患者に説明して調剤」と「薬効によっては患者に説明して調剤」を合わせると6割程度。

27

問2 あまり積極的に取り組んでいない理由(上位5項目)(複数回答)

	保険薬局
第1位	備蓄増に伴う不良在庫の拡大など在庫管理の負担が大きい(58.9%)
第2位	近隣の医療機関が使用に消極的(47.9%)
第3位	品質に疑問がある(34.2%)
第4位	効果に疑問がある／安定供給体制が不備である(30.8%)
第5位	

- 「備蓄増に伴う不良在庫の拡大など在庫管理の負担が大きい」「近隣の医療機関が使用に消極的」の割合が高い。

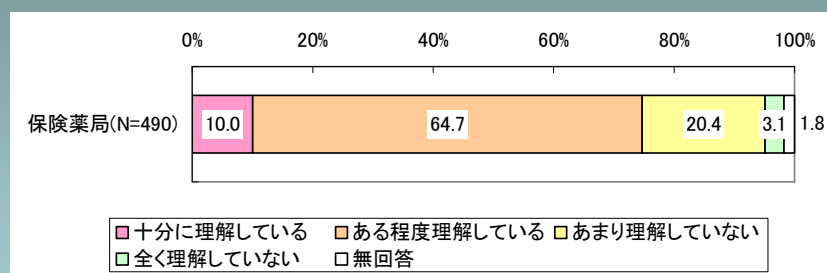
28

問2 あまり積極的に取り組んでいない理由(その他意見 一部抜粋)

保険薬局	
<input type="radio"/>	ほとんどの処方せんが変更不可のため
<input type="radio"/>	同じような薬品名や同効薬が増えると調剤過誤の不安がある
<input type="radio"/>	乳児医療で無料齢の人が多いため
<input type="radio"/>	処方せん枚数が多い病院が後発品変更に対して良い感情をもっていないため

29

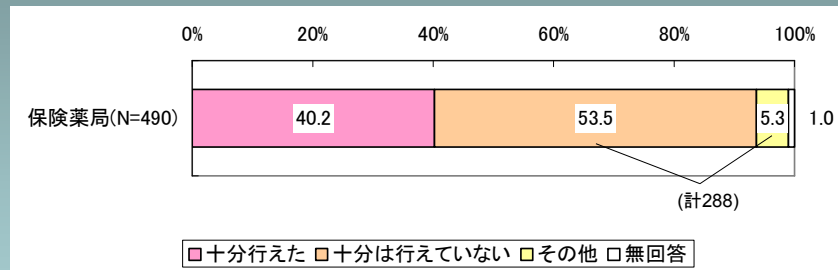
問3 後発医薬品の品質保証の認知度



- 「十分に理解している」と「ある程度理解している」を合わせると75%程度。

30

問4 変更可能な処方せんを持参された患者に、説明を十分行えたか



●「十分は行えていない」は5割以上。

●「十分行えた」が4割程度。

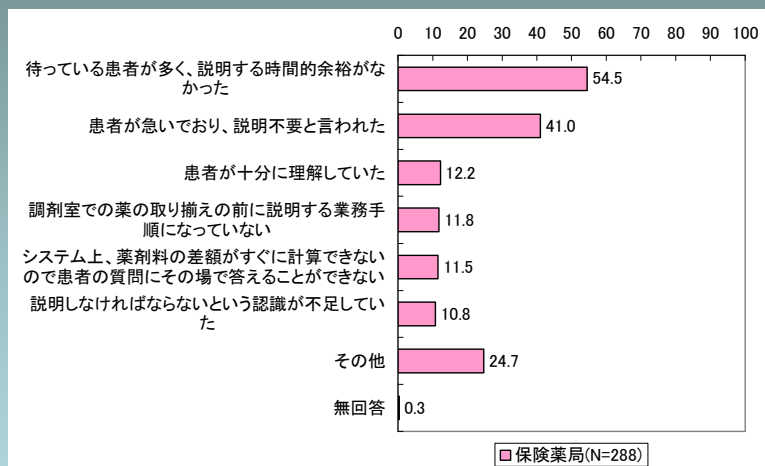
31

問4 (その他意見 一部抜粋)

保険薬局	
<input type="radio"/>	まだ後発医薬品が発売されていない
<input type="radio"/>	必ず説明するが、店内混雑時は「十分な説明」とはいえないと思う
<input type="radio"/>	患者から求められた方のみ説明している
<input type="radio"/>	ほとんど来ないし、患者様の希望も少ない
<input type="radio"/>	一度処方されたことがある、あるいは在庫もあり、説明資料の準備もできているものは行えている

32

問5 後発医薬品の説明が十分でない理由 (複数回答)



- 「待っている患者が多く、説明する時間的余裕がなかった」
「患者が急いでおり、説明不要と言われた」が高い。

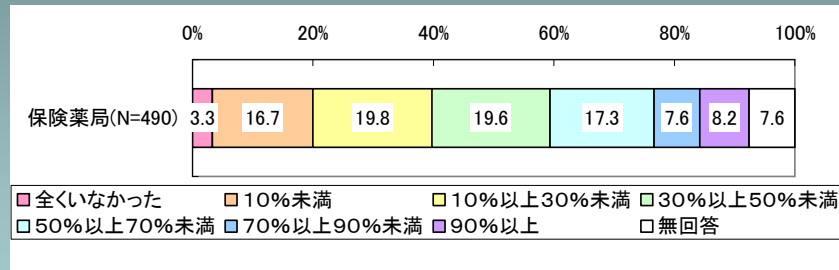
33

問5 (その他意見 一部抜粋)

保険薬局	
○	患者様に「おまかせします」と言われることが多い
○	理解力に問題のある方が多く、受け止められ方に難しさを感じる
○	後発医薬品については、CM等で十分周知されているはずで、患者が希望すれば相談にのるべきだが、患者が説明を求めないということは希望しないということだから
○	病気の性質状(難病の方が多)ジェネリック変更することに不安があり、あまり差し障りのないような薬のみすすめるようにしているため
○	負担金額に大差がないため

34

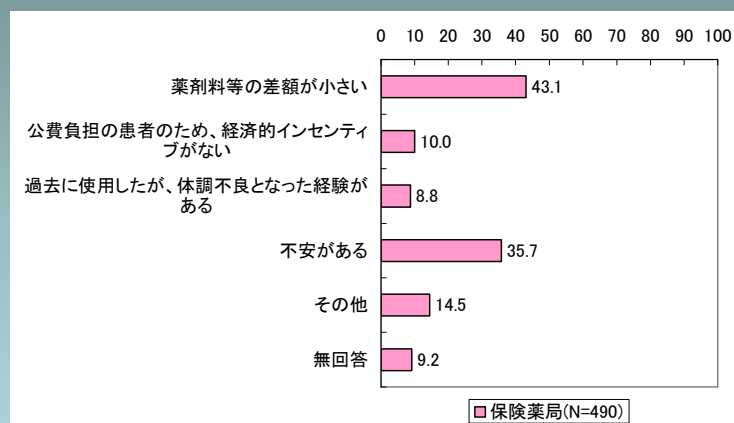
問6 後発医薬品の使用を希望されなかった患者の割合



- 「10%以上30%未満」「30%以上50%未満」がともに2割程度。

35

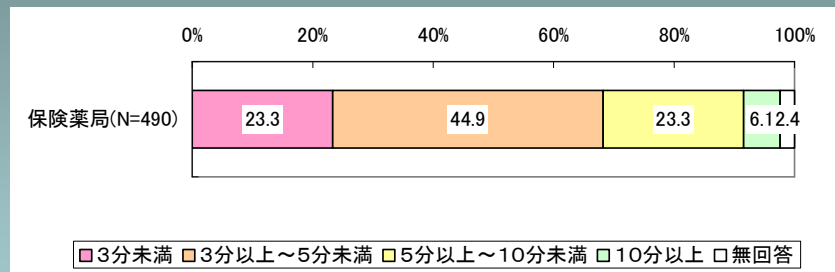
問7 後発医薬品の使用を希望されなかった理由



- 「薬剤料等の差額が小さい」「不安がある」がともに4割程度。

36

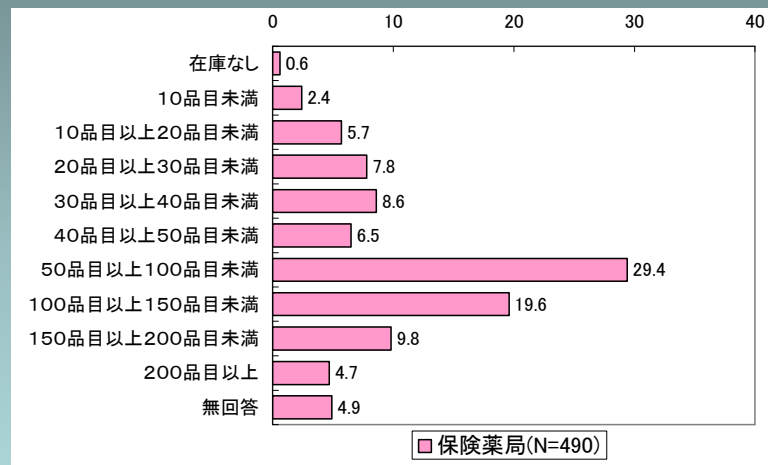
問8 後発医薬品の説明に要した時間



●「3分以上～5分未満」が4割以上(一般的な服薬指導を除く)。

37

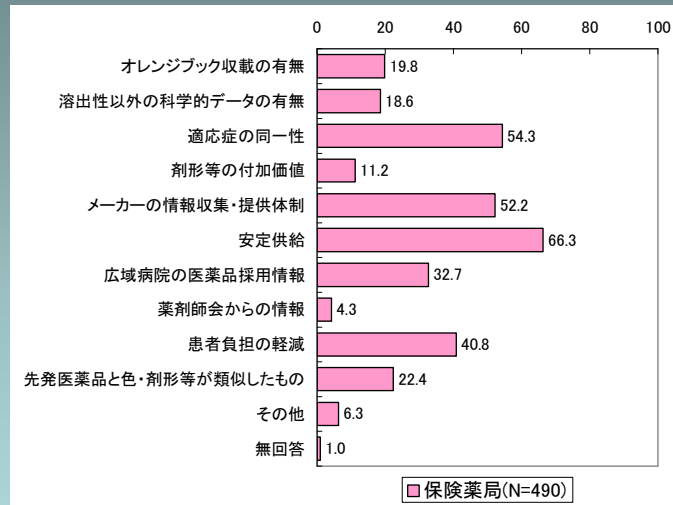
問9 後発医薬品の在庫品目数



●「50品目以上100品目未満」が3割程度。

38

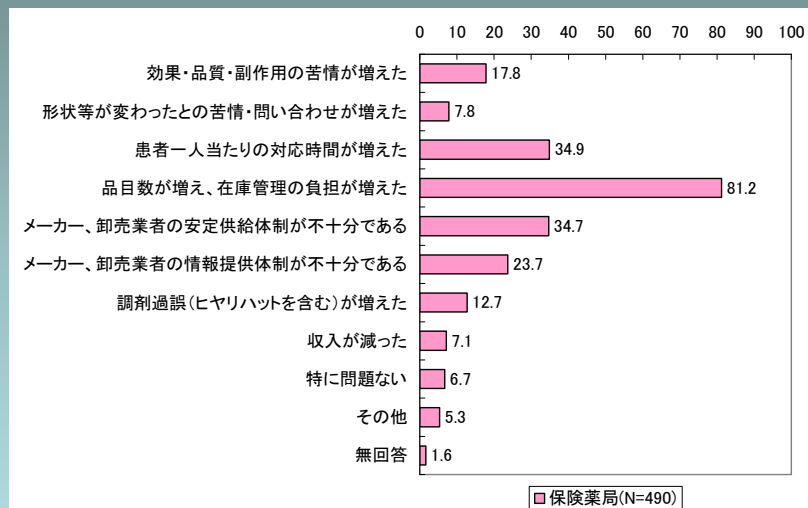
問10 在庫に際し重視すること(複数回答)



●「安定供給」「適応症の同一性」「メーカーの情報収集・提供体制」がそれぞれ5割以上。

39

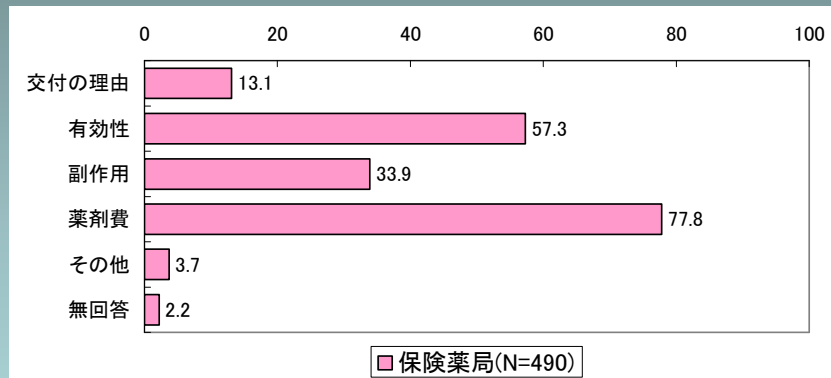
問11 取扱い上の問題点(複数回答)



●「品目数が増え、在庫管理の負担が増えた」が8割以上。

40

問12 患者からの質問事項(複数回答)



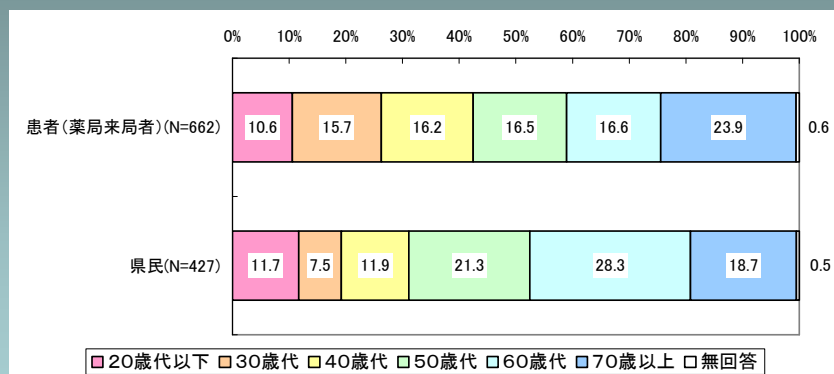
●「薬剤費」が8割程度、また「有効性」も6割程度と高い。

41

○県民アンケート

42

○ 年齢



●患者(薬局来局者)・県民とも60歳代、70歳以上の割合が高い。

43

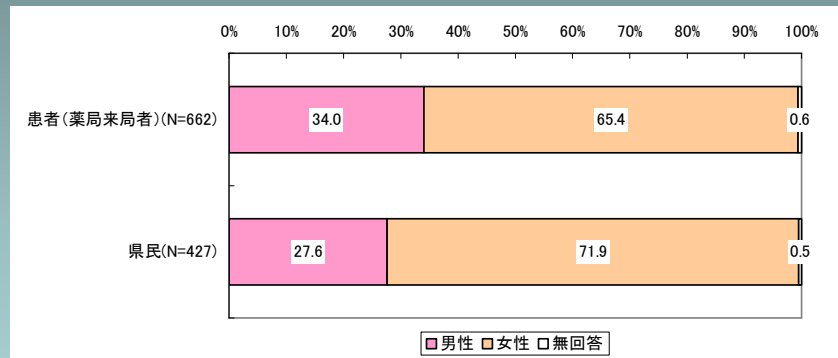
○ 住まい(上位5市町村)

	患者(薬局来局者)	県民
第1位	岡山市(37.2%)	岡山市(40.3%)
第2位	倉敷市(18.7%)	倉敷市(14.5%)
第3位	津山市(10.0%)	津山市(6.6%)
第4位	玉野市(4.8%)	真庭市(4.2%)
第5位	真庭市(4.1%)	玉野市／総社市(3.3%)

●患者(薬局来局者)・県民とも、岡山市・倉敷市の割合が高い。

44

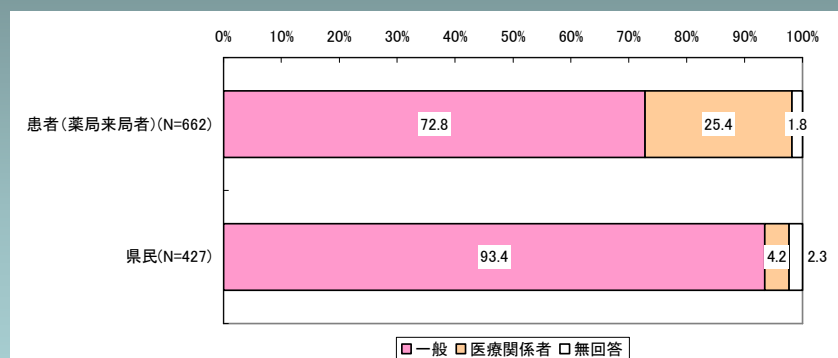
○ 性別



●患者(薬局来局者)・県民とも男性が3割、女性が7割程度。

45

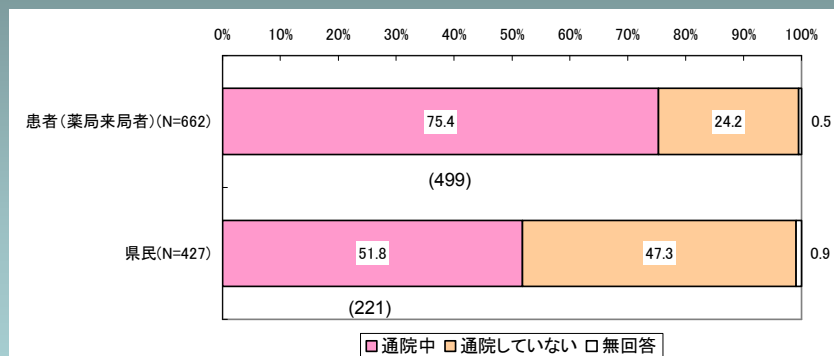
○ 職業



●患者(薬局来局者)では、医療関係者が1/4程度。

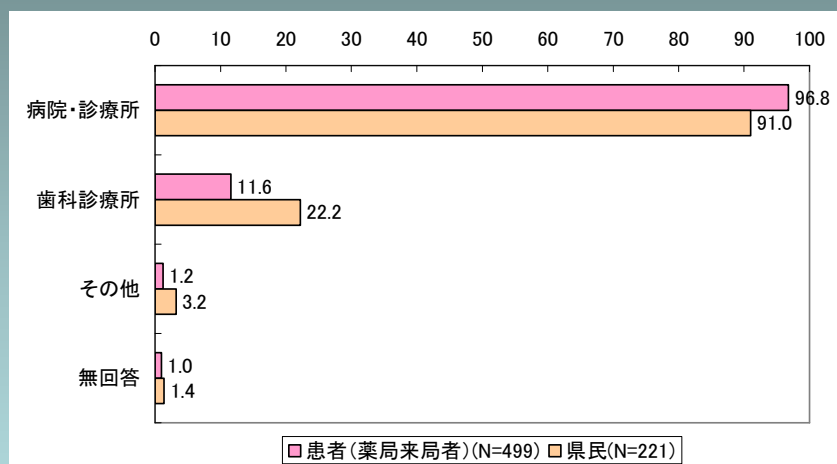
46

○ 通院の有無



●患者(薬局来局者)では、通院中が3/4程度。

○ 通院先(複数回答)



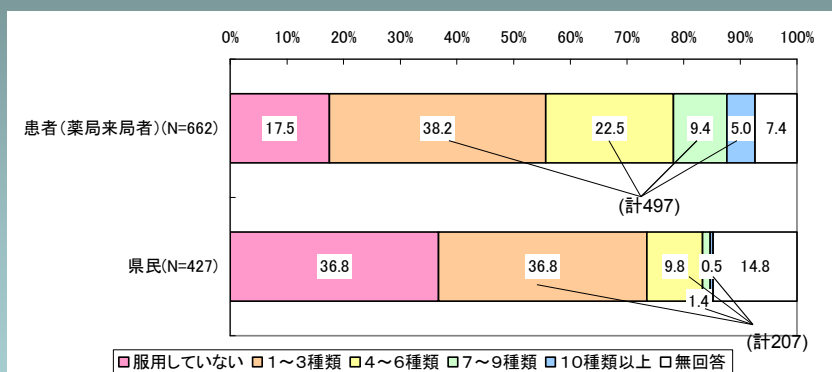
●県民では、歯科診療所が2割以上。

○ 治療中の診療科(上位5項目)(複数回答)

	患者(薬局来局者)	県民
第1位	内科(75.2%)	内科(64.3%)
第2位	整形外科(15.2%)	歯科(24.4%)
第3位	歯科(13.4%)	眼科(14.0%)
第4位	眼科(12.4%)	整形外科(10.4%)
第5位	耳鼻咽喉科(8.2%)	循環器科(6.3%)

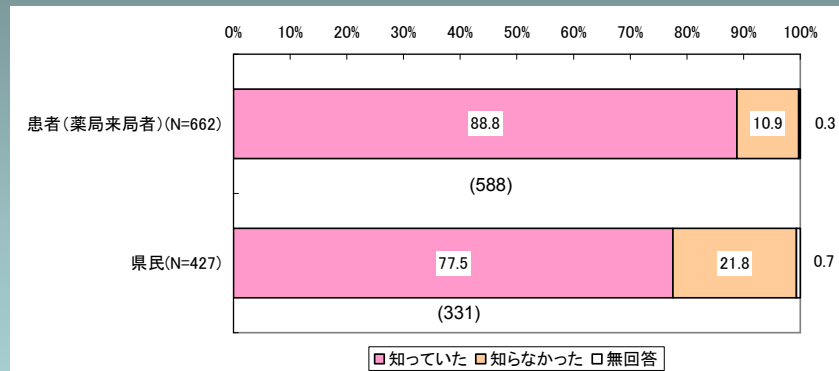
●患者(薬局来局者)では「内科」、県民では「歯科」が高い。

○ 服用している薬の種類



●患者(薬局来局者)では「1~3種類」「4~6種類」、県民では「服用していない」が高い。

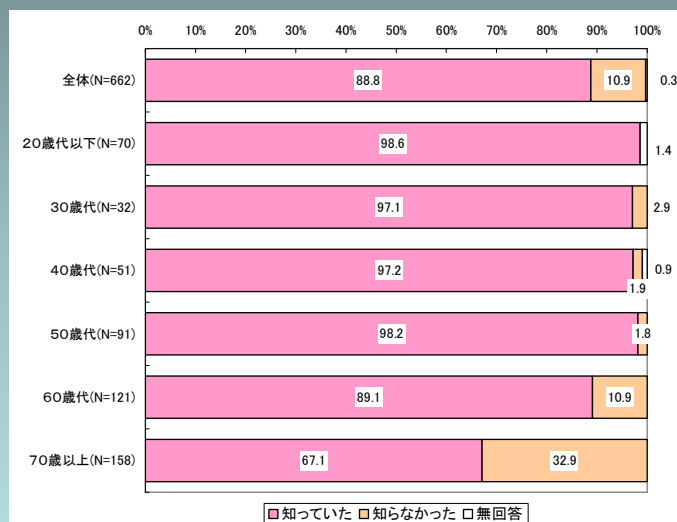
問1 後発医薬品の言葉の認知度



●患者(薬局来局者)では「知っていた」が9割程度。

51

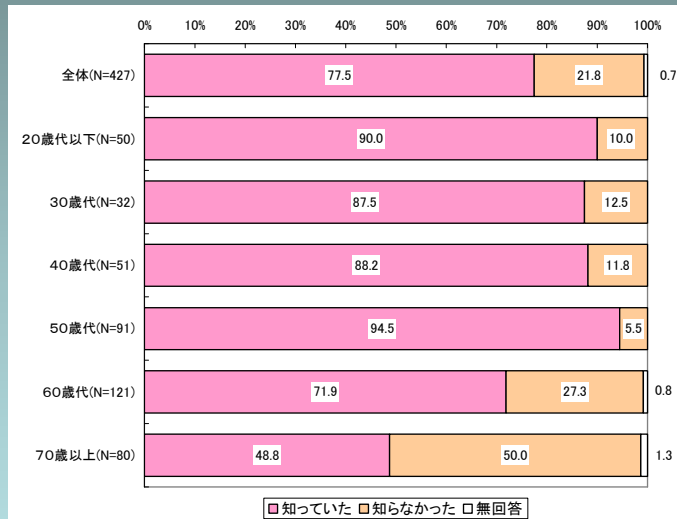
問1 後発医薬品の言葉の認知度 (年齢別:患者(薬局来局者))



●60歳代・70歳以上で「知らなかった」が高い。

52

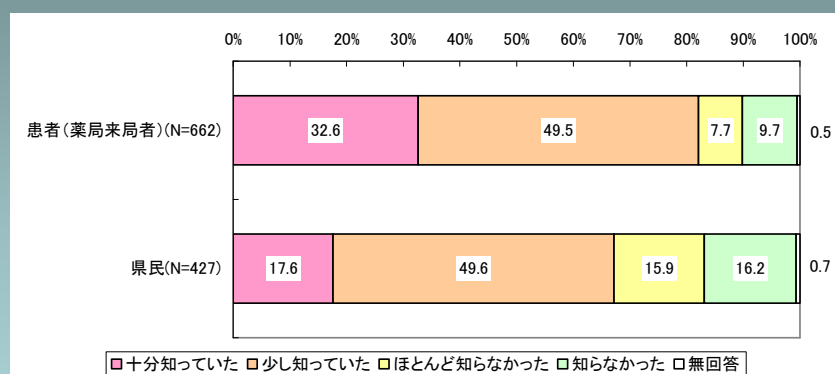
問1 後発医薬品の言葉の認知度 (年齢別：県民)



●60歳代・70歳以上で「知らなかった」が高い。

53

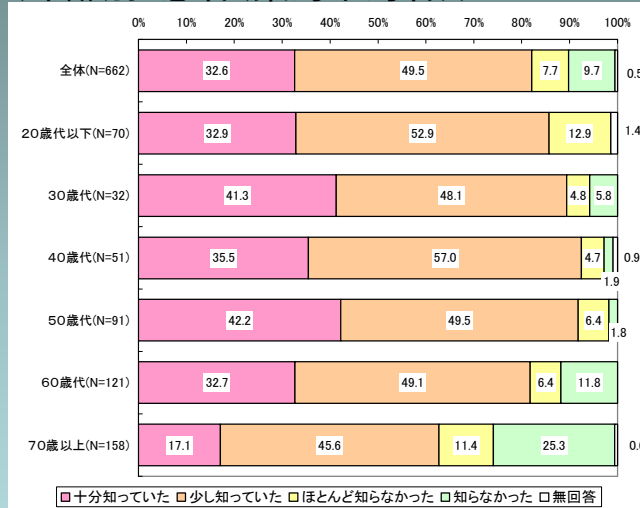
問2 後発医薬品の内容の認知度



●「十分知っていた」または「少し知っていた」の割合は、
患者(薬局来局者)が8割以上に対し、県民は7割程度。

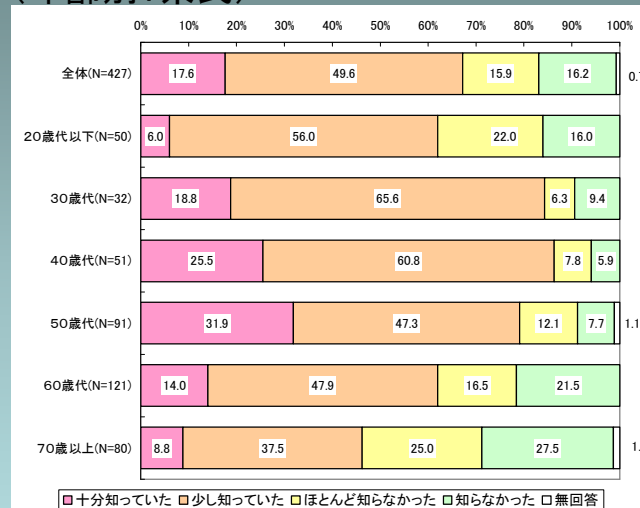
54

問2 後発医薬品の内容の認知度
(年齢別:患者(薬局来局者))



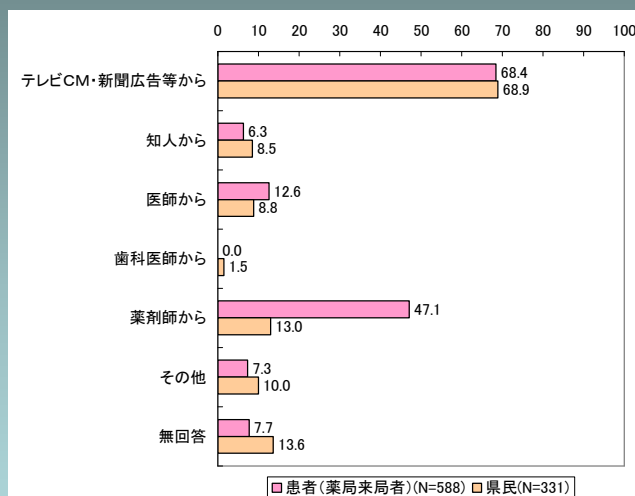
●30～50歳代で「十分知っていた」「少し知っていた」の割合は高い。
また、60歳代・70歳代で「知らなかった」の割合が高かった。 55

問2 後発医薬品の内容の認知度
(年齢別:県民)



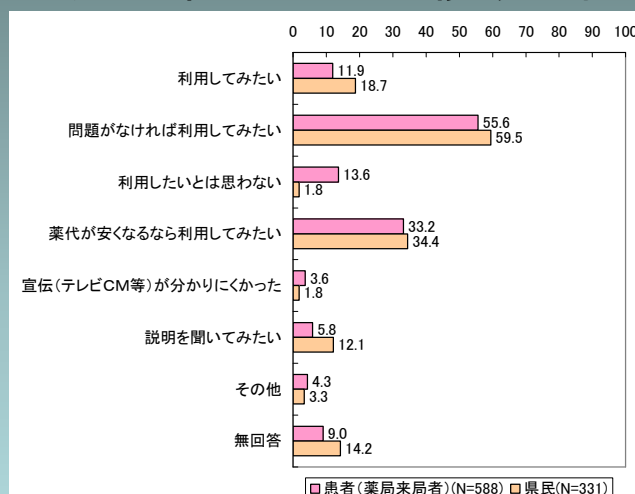
●30～50歳代で「十分知っていた」「少し知っていた」の割合は高い。
また、60歳代・70歳代で「知らなかった」の割合が高かった。 56

問3 後発医薬品を知った経緯(複数回答)



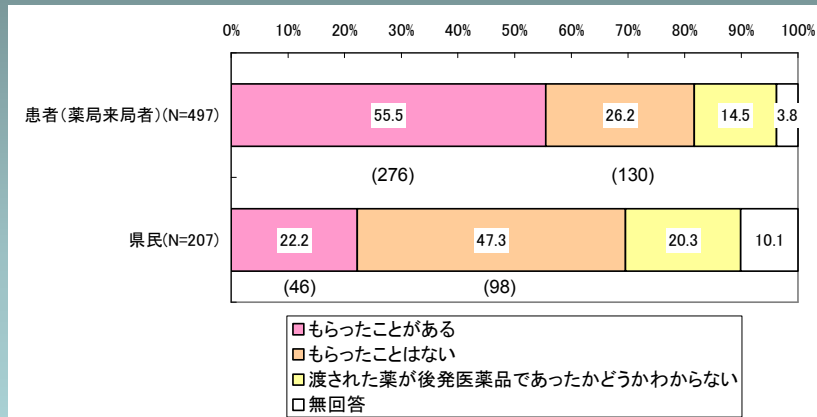
●患者(薬局来局者)・県民とも「テレビCM・新聞広告当
から」が約7割と高い。また、患者(薬局来局者)では「薬
剤師から」が5割程度と高い。
57

問4 後発医薬品の感想(複数回答)



●患者(薬局来局者)・県民とも、「問題がなければ利用して
みたい」が5割以上と高く、「薬代が安くなるなら利用してみ
たい」も3割程度となっている。
58

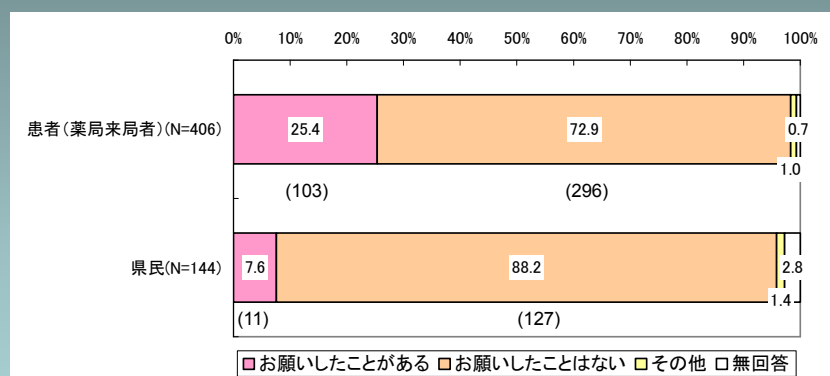
問5 後発医薬品をもらったことの有無



●患者(薬局来局者)では「もらったことがある」、県民では「もらったことがない」がそれぞれ5割程度と高い。

59

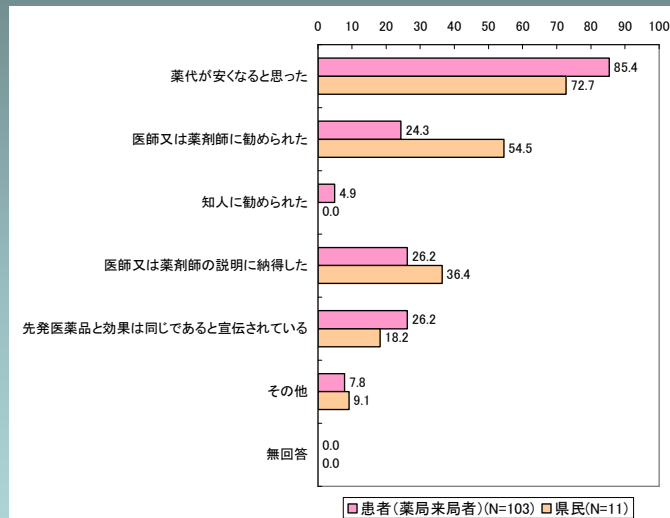
問6 後発医薬品を自分からお願いしたこと



●患者(薬局来局者)では「お願いしたことがある」が2割以上。

60

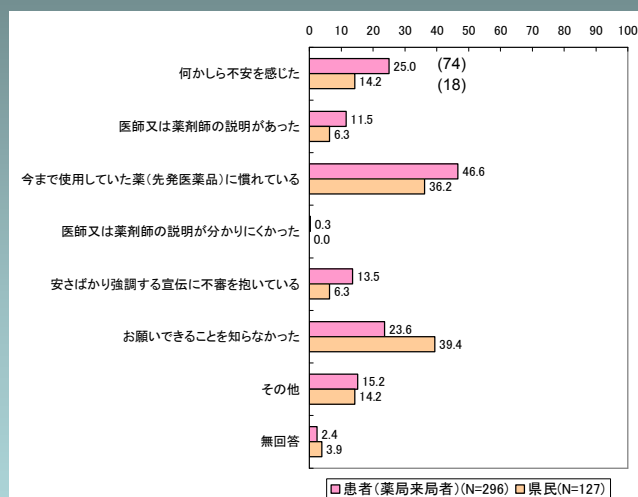
問7 後発医薬品を希望した理由(複数回答)



●患者(薬局来局者)・県民とも「薬代が安くなったから」、県民では「医師又は薬剤師に勧められたから」が高い。

61

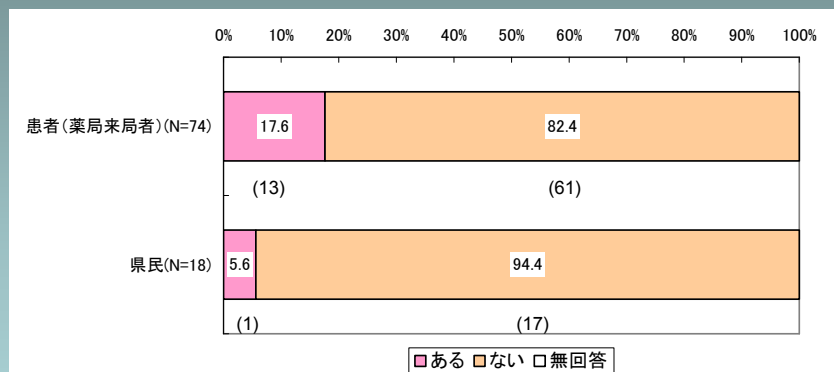
問8 後発医薬品を希望しなかった理由(複数回答)



●患者(薬局来局者)では、「今まで使用していた薬に慣れているから」「何かしら不安を感じたから」が、県民では、「お願いできることを知らなかったから」「今まで使用していた薬に慣れているから」が高い。

62

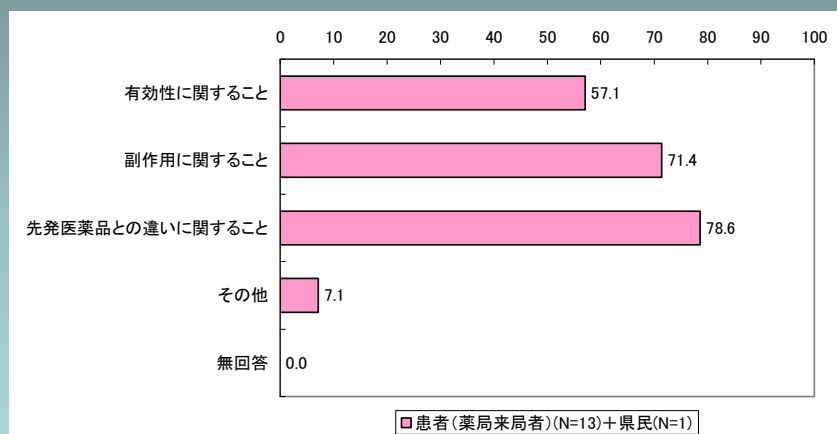
問9 後発医薬品に関して相談したこと



●患者(薬局来局者)では「ある」が2割程度。

63

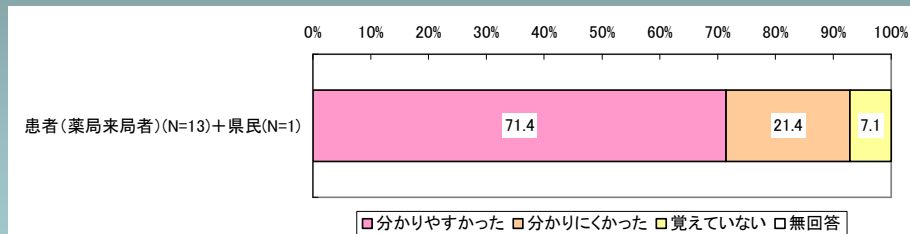
問10 後発医薬品に関して相談した内容 (複数回答)



●「先発医薬品との違いに関すること」の割合が約8割であった。

64

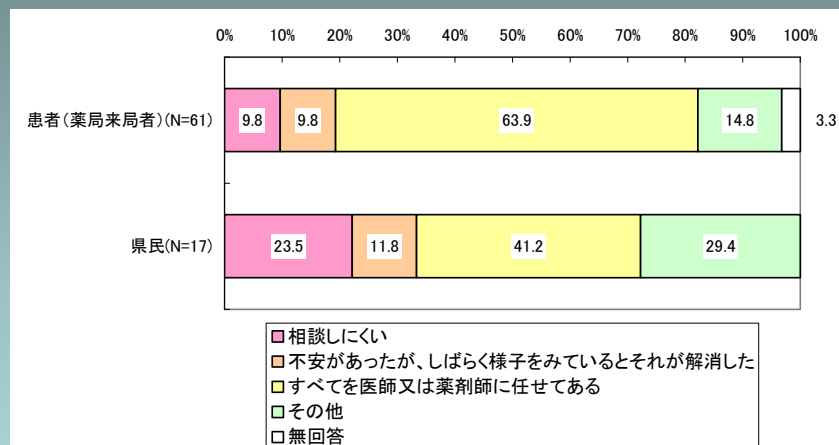
問11 説明の分かりやすさ



●「わかりやすかった」と回答した割合が約7割であった。

65

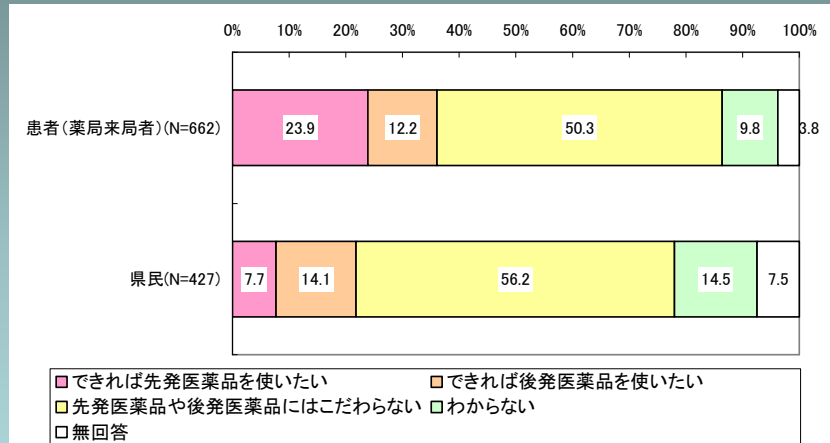
問12 相談しなかった理由



●患者(薬局来局者)では「すべてを医師又は薬剤師に任せてある」、
県民では「相談しにくい」が高い。

66

問13 後発医薬品の使用に関する考え方



●「先発医薬品や後発医薬品にこだわらない」が約5割程度であった。

問14 後発医薬品の使用にあたり必要なこと(上位5項目)(複数回答)

	患者(薬局来局者)	県民
第1位	効果があること(71.8%)	効果があること(70.7%)
第2位	副作用の不安が少ないこと(64.5%)	副作用の不安が少ないこと(70.0%)
第3位	窓口で支払う薬代が安くなること(53.3%)	窓口で支払う薬代が安くなること(51.8%)
第4位	後発医薬品についての正確な情報が容易に入ること(30.1%)	医師の勧めがあること(42.9%)
第5位	医師の勧めがあること(28.9%)	後発医薬品についての正確な情報が容易に入ること(41.2%)

●患者(薬局来局者)・県民ともに「効果があること」「副作用の不安が少ないこと」が高い。

ご清聴ありがとうございました。

